

<藍が沁みる> '08 春 3 日目：南宮崎～串間 83km

4月24日木曜日、3:30に起床、身支度を早目に済ませ4:30に出発した。今日は最終日、自然と気合いが入る。昨日のことは忘れ、この一日に集中しなければならない。何があっても串間まで辿り着く決意だ。

外は祈りが通じたのか快晴だが、風が強烈だ。帽子を握りしめる。こいつを飛ばされる訳にはいかない。庇の裏に、「無事に帰ってきてね、無理をせずに」と妻の一言、何よりのお守りだ。

3日目になると慣れてくるのか歩が進む。疲労蓄積で、体には大変なダメージがあるはずなのに、気力がそれに勝るのだろう。体はいつでもどこでも鍛えられるが、心はこういう逆境でしか鍛えられない。私は、もっと心を強くしたい。だから単独でやるのだ。サポートがいれば、どうしても頼りにして甘えが出る。あのスマイルランは何だったのか、という気さえするのだ。

10km走ると運動公園の入口が見えた。青島太平洋マラソンのスタート地点だ。8回来たが、4時間を切ったのは3回しかなかった。遅かったなあ、でもそのせいでジャーニーに転向できたんだから、遅いのも、まっいいか。

様々なことを思い返しながらか、青島で日の出を迎えた。子供の国も青島も昔の面影はない。廃墟と化している。「東知事、ここもどげんかせんといけんぞ」と呟きながら通過した。

堀切峠を上る。バイパスができており、下りは2kmの直線でその内1600mはトンネルだ。オっとトンネルの入口に猿が一匹おる。奴は斥候で、本隊が後からくるのはガッテン承知している。目を合わさないようにして、100m程バックし素知らぬ振りで見ていると、群れがザーっと横切っていった。くわばらくわばら、「触らぬ神に祟りなし」とはこのことだ。

内海に下りるといよいよ日南海岸の始まりだ。イルカ岬を巡ると本格化する。何てことだ。藍色の海、白い砂、そして淡いブルーの空。陽光がキラキラ輝き、私の心をつかんだ。日南海岸はこんなにもすばらしかったのか。「やべえ」を連発し脳裏に刻み込む。ここまで走って来た者だけにしか与えられない特権だ。「こらあ俺だけのもんじゃい！」と叫んだ。

1500mの日南富士トンネルを抜け、サボテン公園を過ぎ、1300mの新鶴戸トンネルも抜け、220号線を着々と南下した。足取りは軽い。遊歩道がほぼ完備されており、随所に「さあ、ここに掛けて眺めて行って下さい」と言わんばかりに、ベンチや岩が置かれている。「据え膳食わぬは男の恥」てな気分になり、律儀にもその全てに腰を下していったからだ。休憩十分である。心が、「嬉しい、来てよかった」と言っていた。

日南フェニックスロードを満喫し日南市に入った。5kmの市街地を過ぎると油津港だ。天福球場が見えた。広島カープの元キャンプ地で、私も大学生の時、2度春季キャンプに来たことがある。40年も前のことだ。個人ノックがきつかったことを覚えている。

アッという間に南郷町、時刻は12:30、距離は55kmオーバーだ。さあて、天賦の才を発揮する時がやってきた。天賦の才？そう、私にはショートカットの才能があるのだ。地図を

見てつかむのは当然だが、地図に載っていない道でも匂いで分かるんだ。そして果敢に攻める。只今、カット率5割だ。イチローの打率よりもはるかによい。

昨年スマイルランでは、愛知県岡崎市付近で試みたが、本道から大きく外れてしまい電車で戻るハメになった。京都市では、鴨川、桂川に沿って走り街を斜めにカットした。工藤OCTC会長に、「前田、おまえは何考えちよるんじゃ、そんなんカットできる訳なからうが。」と叱られるが、わたしや懲りん奴で。一度カットの味を覚えたら止められない止まらないということなのヨー、今日もやるしかないで。

私のショートカットの基本的な考え方は、三角形の底辺部分を突くというものだ。南郷町の地図を見てもらえれば解るのだが、正にここは、220号線が三角形を形成している部分があるのだ。利用しない手はない。カット成功の鍵は、入口を間違わないようにすることだ。これをミスれば、昨年の岡崎市でのように悲惨な結果になる。

南郷町大堂津駅を1km程過ぎた所で、右に入る狭い道を見つけた。脇目も振らずに突入する。小さな峠を下った所で、左手に日南農林高が見えた。やったあ！カットコンプリートだ。上中村という交差点で220号線と合流する。2kmくらいのカットだろうか、一昨日の「はゆま」での大回りと、昨日の佐土原でのミスを一気に帳消しにした感じだった。「溜飲が下がる」とはこの様なことを言うのだろう。

ショートカットをセコイと言うなかれ。これは、ジャーニーランの正攻法だと思っているのだから。

さあ、さあ、さあ、この旅の締め括り箇所に来て来ました。串間まで20kmの峠越えである。時刻は13:30、先ほどの交差点にあるローソンで用をたし、おにぎりを2個詰め、ユンケルを1本飲んでファイト一発、アッ、これはリポDか。ユンケルは効くよ、へトへトになった時でも5kmはもつ。

旅館には18:00頃着くと言っているから、時間はタップリある。ここから串間までの220号線は、JR日南線がずっと並走している。私はそこそこの鉄ちゃんであるから、こういうローカル線と並んで走れるにはたまらない。串間までの各駅におじゃまして行こうと考えた。

谷の口駅の玄関口を歩道が通っている。下りが一両やって来た。警笛2発鳴らして、あれえ、停車せずに行っただぞ。乗降客がいなかったからなのか。バスでもあるまいし、こんなありか、初めて見た。さすがローカル線ぞい。

だんだん上って行って、7kmの地点に榎原(よわら)という駅があった。マンゴーの産地で、隣接のマーケットにたくさん並べていた。5個で¥2000ちゅうのは安いかな。

歩道の掃除をしている奥さんに会った。ジーパンが似合っていて、脚もお尻もカッコいい。残念ながら、顔は日よけ用の農作業帽でスッポリ隠されており拝めなかったが、そこだけは出していた目元が涼しげだった。私はシャイだから、取って見せてとはとても言えなかった。村上兄なら軽いだらうに、なんとって「村上する」があるからね。私の格好を見て察したのだろう。「水分補給よ」と声をかけてくれた。元気がでるなあ。

峠のてっぺん付近で日南線が右側に移る。串間までずっと下っている。この調子で行くと早く着き過ぎるので、残り10kmは歩くことに決めた。まだ15:30だ。旅の終章はのんびりといきましょうである。

てくてく歩いて日向大東(おおつか)駅、日向北方駅をパスした。辺りはたばこ栽培が盛んで、赤く丸い夕日がたばこ畑に傾いていくのを眺めながら、3日間の旅の終着点である串間に到着した。17:00 だった。

駅近くの旅館、友永荘に着くと早速風呂に浸かった。広い風呂は気持ちがいい。疲れがジワーッと忍び寄るが、達成感がそれを抑え込む。大瓶2本付きの食事は大広間で一人きりだったが、一つ一つ噛みしめながら味わった。「うまい!」、実感が込み上げてくる。夜の帳が下りて来た串間の街にくりだして行ったのは言うまでもない。今夜だけは早く寝たくはない、寛がなくてはなるまい。

これで '08 春のジャーニーランが終了しました。出発する時は不安いっぱいだったのですが、やり遂げてみると更なる自信が湧いてきました。応援有難うございました。やるのは独りでですが、心の中には常に、家族のことや大分UMCの皆さんのことがあるのです。ですから、単独でも全然淋しくなんかないのです。家族っていいですね、仲間っていいですね。

さて、'08 秋は紀伊半島をやる予定です。三重県関～松阪～伊勢～志摩～熊野～串本です。

九州は来春です。串間～鹿屋～山川～枕崎～川内～水俣の予定です。まず西日本をやっつけなければなりません。夢がだんだん膨らみます。元気でいなくてはですね。